

桜島の昭和火口の活動について

京大防災研（2006年6月11日）

【要旨】 2006年6月4日から昭和火口では繰り返して噴火が発生、本格的な火口に成長しつつある。一方、同火口の噴火を伴う火山性地震（BL型）は、これまで山頂火口の地下で発生していたが、6月10日頃から山頂火口の東、昭和火口付近の地下で発生している。

昭和火口へ連なる火道が成長拡大しつつあると推定され、今後、従来山頂火口で発生していた規模の噴火が、昭和火口で発生する可能性が高くなってきた。

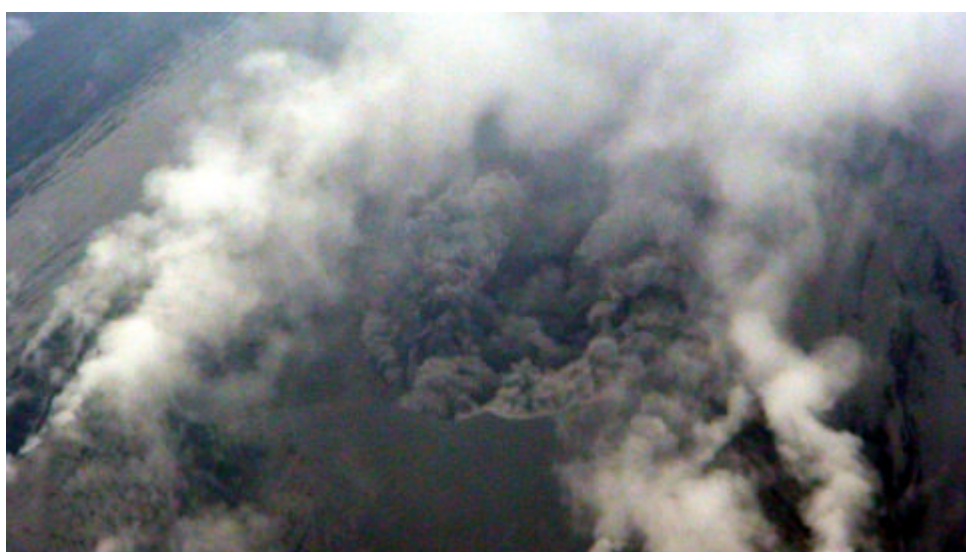
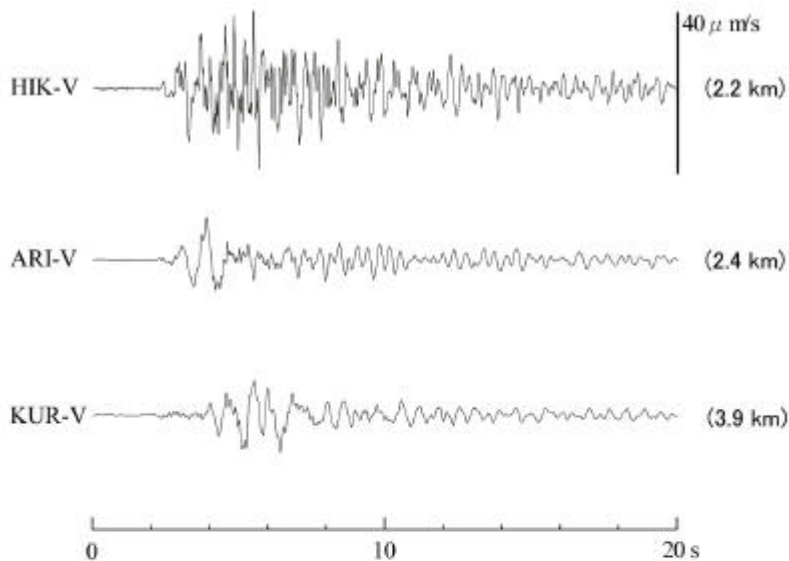


写真1 . 2006年6月11日10:41の昭和火口

（京大防災研：鹿児島県消防防災ヘリコプターから撮影）

昭和火口の上手側が削られ、下流側に火山灰等火砕物が堆積し、火口としての形状が整ってきたようである（火口の直径は概略50m程度と推定される）。小規模な爆発であっても、火砕物の溢出、1979年11月20日（南岳火口縁から1.2km流下：京大防災研HP参照）程度の火砕流発生可能性がある。また、火口周辺に堆積した火砕物は、降雨時の土石流発生の材料となる。

2006年6月10日 06:02:59 BL型 (噴煙放出)



上図()内は昭和火口からの距離, 下図()内は南岳山頂火口からの距離

2006年4月5日 23:02:20 BL型

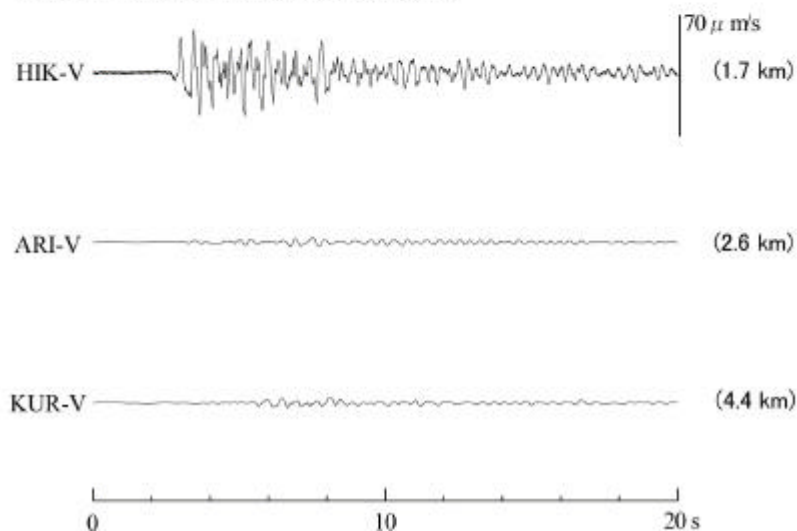


図1 . 2006年6月10日のB型と4月5日のB型の波形の比較

(HIK は南岳西方の引の平観測点、ARI は南方の有村観測点、KUR は東方の黒神観測点)

これまでのB型地震の震央は南岳の山頂火口内であった。3観測点の振幅及び着震時刻差の比較から、6月10日のB型の震央は山頂火口の南東側(昭和火口付近)と推定される。また、6月10日のB型は噴火に対応している。このことは、桜島直下から昭和火口へ連なる火道が形成・拡大しつつあることを示唆している。